



第6期研究プロジェクト

第5期の取組を踏まえ、保育・教育現場において「心の育ち」という視点に立ち、子ども理解や保育者・教員間の関係性を深めていけるよう研究を進め、かつ保幼小連携の機会の広がりにつなげる。

京都市が、令和4年度から取組を進める「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」の一環として、保幼小連携のきっかけ・土台づくりとなる取組を行う。

取り組み方法例

- ①参観によって互いの実践を知り合う（保育・授業参観）
- ②研修の受講によって、子ども理解を深める（テーマ例「心を育てるとは」「発達障害について」等）
- ③検討会を通して、互いの子どもの見方を知り、子ども理解を深める（事例・エピソード等）

* ①、②、③以外の方法も検討しながら負担のない形で実施する。

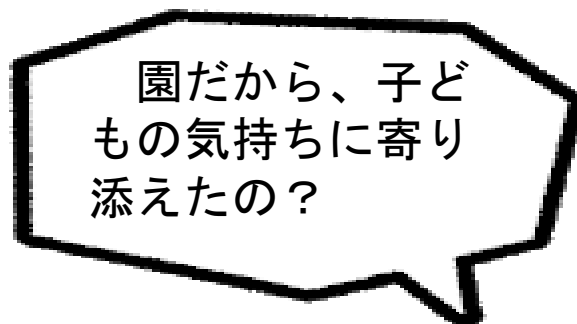
取組（エピソード検討会）の中で…



子どもがふざけていたら、気持ちなど考えるより注意してしまう。



園のように、時間に余裕がない。



園だから、子どもの気持ちに寄り添えたの？



園でも同じように叱ってしまうこともある



子どもが、なぜそうするのかと考えるとよいのでは？

就学前施設だから、小学校だからではなく、子どもの行動の底にある思い（心）を見取る力、その子が何を感じ、どう思ってそんなことをしたのか、ということを肯定的に捉える力が必要ではないか、と話し合いを深めました。

子どもを真ん中に大人同士がスクラムを！



- ・心の育ちという視点から子ども理解を深める
- ・地域で保幼小の同僚性を育む



地域で保幼小の保育者・教員がお互いに面識をもち、保育・教育活動について理解を深め、子どもを真ん中につなぎ合うための取組を進めながら、「心の育ち」という視点から子ども理解を広めていきたいと考えています。